

海田東小学校本館改築基本構想について

I 海田東小学校本館改築基本構想の策定について

1 基本構想の作成主体

海田東小学校本館改築基本構想の策定については、町教育委員会学校教育課（校舎建替推進チーム）を事務局として海田中学校区学校運営協議会内に海田東小学校校舎改築検討部会を設置し、協議等を進めながら策定していくこととする。

2 海田東小学校校舎改築検討部会について

海田東小学校校舎改築等にあたり、円滑な学校運営と学校施設の充実等について協議するため、海田中学校区学校運営協議会内に海田東小学校校舎改築検討部会（以下「検討部会」という。）を設置する。

(1) 検討事項について

海田東小学校校舎改築事業に関すること。

(2) 検討部会の構成員について

☐ 海田東小学校区学校運営協議会委員

- ・海田東小学校職員
- ・海田東小学校 P T A 代表者
- ・海田東小学校区地域代表者

☐ 教育委員会

- ・教育長
- ・教育委員代表

☐ その他

- ・学識経験者 等

(3) 検討部会の事務局について

検討部会の事務局は、学校教育課（校舎建替推進チーム）とする。

3 海田東小学校本館改築に係る想定スケジュールについて

今後は、次のようなスケジュールを想定している。

項目／年度	R5年度			R6年度			R7年度			R8年度			R9年度			R10年度			R11年度		
基本構想																					
基本計画・基本設計																					
地質調査等																					
実施設計																					
建築工事																					
供用開始																					

4 海田東小学校本館改築基本構想の策定スケジュールについて

次の日程案で、各対象に対してヒアリング、意見聴取、アンケート、報告等を実施する。

年度	No	時期／対象	内 容	備 考
令和5年度	1	R5. 12月21日(木) 文教福祉委員会	・海田東小学校本館改築基本構想について	
	2	R6. 1月10日(水) 第1回検討部会	・検討部会の設置 ・「海田東小学校本館改築基本構想骨子(案)」説明及び意見聴取 ・今後のスケジュールの確認	
	3	R6. 2月15日(木) 教育委員会会議 (総合教育会議)	・「海田東小学校本館改築基本構想骨子(案)」説明及び意見聴取	※企画課と調整
	4	R6. 2月下旬 文教福祉委員会	・「海田東小学校本館改築基本構想骨子(案)」説明及び意見聴取	
	5	R6. 2月中旬～下旬 対象：教職員 【アンケート調査】	・「海田東小学校本館改築基本構想骨子(案)」説明 ・オンラインアンケート調査の実施 ・集約・内容のまとめ	
	6	R6. 3月中旬～下旬 対象：保護者 【アンケート調査】	・「海田東小学校本館改築基本構想骨子(案)」説明 ※ 保護者対象説明会を実施予定 ・オンラインアンケート調査の実施 ・集約・内容のまとめ	※改築通信①の発行
令和6年度	7	R6. 5月初旬 第2回検討部会	・アンケート調査の結果報告 ・「海田東小学校本館改築基本構想(素案)」説明及び意見聴取	
	8	R6. 5月中旬 教育委員会会議	・アンケート調査の結果報告 ・「海田東小学校本館改築基本構想(素案)」説明及び意見聴取	
	9	R6. 6月中旬 文教福祉委員会	・アンケート調査の結果報告 ・「海田東小学校本館改築基本構想(素案)」説明及び意見聴取	
	10	R6. 6月下旬 保護者説明	・アンケート調査の結果報告 ・「海田東小学校本館改築基本構想(素案)」説明 ※ 保護者対象説明会を実施予定	※改築通信②の発行
	11	R6. 7月初旬 第3回検討部会	・「海田東小学校本館改築基本構想(案)」説明及び意見聴取	
	12	R6. 7月下旬 教育委員会会議 (総合教育会議)	・「海田東小学校本館改築基本構想(案)」説明及び意見聴取	※企画課と調整
	13	R6. 8月下旬 文教福祉委員会	・「海田東小学校本館改築基本構想(案)」説明及び意見聴取	
	14	R6. 9月中旬 保護者説明	・「海田東小学校本館改築基本構想」説明(紙面) ※HP掲載	※改築通信③の発行

- Ⅱ 海田東小学校本館改築基本構想骨子（案）について
基本構想の骨子を次のように設定する。
- 1 概要等
 - 2 海田東小学校本館老朽化詳細調査の結果について
 - 3 老朽化詳細調査の結果を踏まえた老朽化対策の方向性
 - 4 基本構想策定の前提条件
 - 5 海田東小学校周辺の町づくりの方向性
 - 6 海田東小学校の沿革・概要
 - 7 海田東小学校学校経営計画
 - 8 児童数・学級数等の将来見通し
 - 9 学校職員，保護者等からの聞き取りによる校舎改築に係る要望
 - 10 海田東小学校本館の基本理念と整備コンセプト
 - 11 海田東小学校本館の改築に係る整備方針
 - 12 改築等に係るスケジュール（案）について

Ⅲ 海田東小学校本館改築基本構想の内容について

1 概要等

(1) 学校名

海田東小学校（所在地：広島県安芸郡海田町浜角 1-17）

(2) 建物概要

施設名 本館（管理普通特別教室棟）

建築年度 1964 年(S39)・1967 年(S42)

構造・階数 R C 造・3 階

延床面積 2,973 m²



2 海田東小学校本館老朽化詳細調査の結果について

令和 4 年度、海田東小学校本館について、老朽化に伴う対策として長寿命化改修、改築のどちらかを判断するため老朽化詳細調査を実施した。その結果を次に示す。

- (1) 構造耐力，健全度，立地条件の評点により，耐力度は，4,500 点以下（10,000 点満点）であった。

		海田東小学校本館	
		S39 建築部分	S42 建築部分
耐力度（10,000 点満点）		3,721 点	4,022 点
内 訳	構造耐力（100 点満点）	87 点	85 点
	健全度（100 点満点）	47 点	52 点
	立地条件（1.00 点満点）	0.91	0.91

〔判定要素〕

構造耐力：保有耐力，コンクリート強度，層間変形角，基礎

健全度：健全度，鉄筋腐食度，中性化，躯体のひび割れ

立地条件：地震係数，地盤種別，海岸からの距離

- (2) 耐力度点数が 4,500 点以下となった場合，構造上危険な状態にある建物（危険建物）として，学校施設環境改善交付金（危険改築）の対象となる。

3 老朽化詳細調査の結果を踏まえた老朽化対策の方向性

(1) 耐震性

耐震改修により構造耐力は確保され、地震動に対する倒壊又は崩壊の危険性は低い。ただし、耐震改修における評価では、基礎の影響は考慮されていない。

建物崩壊の可能性は低いものの、基礎構造が杭基礎となっているため、杭の水平抵抗不足による杭の破損に伴い、不同沈下等の危険性が残る。

(2) 躯体等の状況

躯体及び仕上げ、設備機器、設備配管等の劣化に関しては、部分的な改修が行われているが、経年劣化が著しい。

特に、コンクリートについては、鉄筋錆に伴う剥落が各所で確認され、危険な状態と判断される。今後も、鉄筋錆によるコンクリートの剥落の進行が推測される。対策として、コンクリートの再アルカリ化工法等が考えられるが、完全に回復できるわけではなく、経年とともに同様な現象が生じる。再アルカリ化工法を行う場合、壁・床の仕上げはすべて撤去・復旧が必要となり、費用面の負担は大きくなる。

(3) まとめ

今後、長寿命化改良工事を行ったとしても、コンクリートの中性化やコンクリートのひび割れ等による鉄筋錆とコンクリートの剥落等の劣化は、完全に抑制できるとは考えられない。

経年が 56～57 年であり、長寿命化改理事業の補助制度による経年 40 年、及び法定耐用年数の 47 年も大きく超えており、経年劣化が著しい。

長寿命化改良工事を本建物に行った場合、長寿命化改良工事から 30 年以上の継続利用となり、新築時からの経年が 86～87 年となる。

その場合、30 年後に躯体そのものの健全性は大幅に低減されており、再度の長寿命化改良工事には耐えられないと推測される。

将来にわたって長く使用を考える場合は、長寿命化改良工事よりも改築の方がより効率的であるとも考えられる。

なお、改築までには一定の期間を要することから、改築までの間も、外壁劣化箇所の修繕など、必要な安全対策を行っていく。

4 基本構想策定の前提条件

第 5 次海田町総合計画、海田町都市計画マスタープラン、海田町立地適正化計画、海田東地区拠点施設整備基本構想等を参考に作成する。

5 海田東小学校周辺の町づくりの方向性

第 5 次海田町総合計画、海田町都市計画マスタープラン、海田町立地適正化計画、海田東地区拠点施設整備基本構想等を参考に作成する。

6 海田東小学校の沿革・概要

海田東小学校学校要覧，海田町学校施設長寿命化計画等を参考に作成する。

7 海田東小学校学校経営計画

海田東小学校学校要覧，学校経営計画等を参考に作成する。

8 児童数・学級数等の将来見通し

(1) 児童数の将来見通し

① 将来人口

将来人口は，海田東小学校区について，平成 22，27 年の国勢調査人口を用いてコーホート推移率法により推計したうえで，小学校区合計値が，第 5 次海田町総合計画の将来人口と整合するよう補正したものをを用いる。

海田東小学校区における将来人口の推計結果は，次表のとおりである。

表 将来人口 (人)

学区／年度	推 計								
	R 2 年	R 7 年	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
海田東	8,523	8,550	8,467	8,288	8,054	7,823	7,612	7,404	7,174

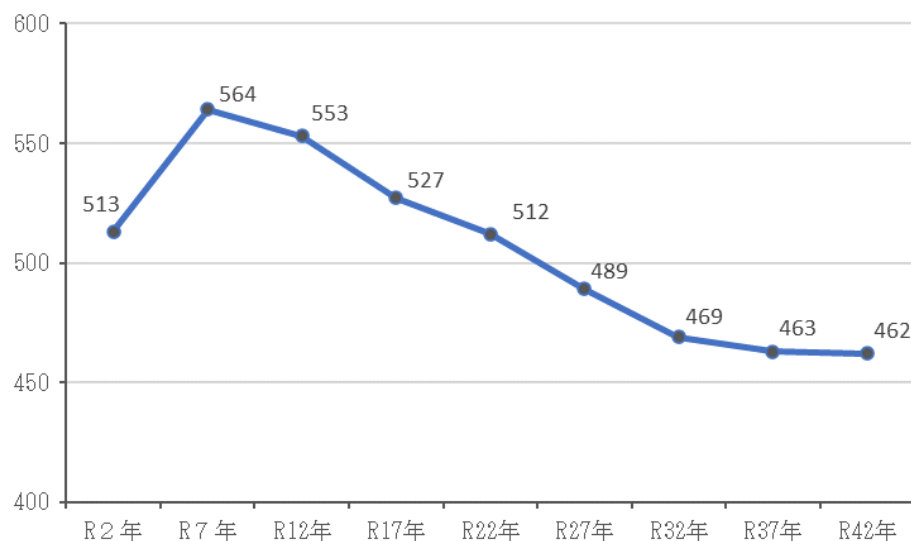
② 児童数の将来見通し

将来人口をもとに，児童生徒数の将来見通しを整理すると次表のとおりである。
児童数は令和 7 年をピークに減少するものと見込まれる。

表 児童数の将来見通し (人)

学校／年度	推 計								
	R 2 年	R 7 年	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
海田東	513	564	553	527	512	489	469	463	462

(人) 図 海田東小学校児童数の将来見通し



(2) 学級数の将来見通し

児童数の将来見通しをもとに、学級数を推計すると次表のとおりである。

学級数は、今後 22 学級が続く見通しである。

表 学級数の将来見通し

(学級)

学校／年度	推 計								
	R 2 年	R 7 年	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
海田東	21	22	22	22	22	22	22	22	22

推計は、次の方法により行った。

- ① 児童数について、1 学年平均値を算出 (例) R 7 年 : $564(\text{人}) \div 6(\text{学年}) = 94(\text{人/学年})$
- ② ①で算出した 1 学年平均児童数を、1 学級児童数 (35 人/学級) で除して学級数を算出 (整数切り上げ) した。 (例) R 7 年 : $94(\text{人/学年}) \div 35(\text{人/学級}) \approx 3(\text{学級}) \times 6(\text{学年}) = 18(\text{学級})$
- ③ 特別支援学級数は、令和 5 年度が 4 学級であることから 4 学級とした。
- ④ ②と③の合計値を学級数とした。 (例) R 7 年 : $18(\text{学級}) + 4(\text{学級, 特支}) = 22(\text{学級})$

9 学校職員、保護者からの聞き取りによる校舎改築に係る要望
関係者からのヒアリング、アンケート等の結果を記載する。

「I-4」の想定スケジュールにより、意見、検討状況等を踏まえ、作成する。

10 海田東小学校本館の基本理念と整備コンセプト

国が示す教育振興計画、第 5 次海田町総合計画等を踏まえ、改築に係る基本理念、整備コンセプトを定める。

11 海田東小学校本館の改築に係る整備方針

「9 関係者からの聞き取りによる校舎改築に係る要望」、検討部会等の意見、文部科学省の学校施設整備指針等を踏まえ、改築に係る整備方針を定める。

12 改築等に係るスケジュール (案) について

項目／年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
基本構想							
基本計画・基本設計							
地質調査等							
実施設計							
建築工事							
供用開始							

基本計画・基本設計段階において仮設校舎の必要性を検討し、必要と判断された場合には、別途仮設校舎の設計等についても追記する。